

学校名：陸前高田市立第一中学校

校長名：佐々木保伸

所在地：岩手県陸前高田市高田町字鳴石 5-1

電話番号：0192-55-3921

I 実践校の概要

1 学校・地域の特徴及び実態

本市は、武道が盛んな地域である。

本校は、現在保健体育の授業において全学年の男子が柔道に取り組んでいる。柔道の部活動などにおいては、外部指導者の熱心な指導のもと、岩手県や全国の大会で数多くの成果をあげている。

剣道においては、本市は北辰一刀流開祖「剣豪千葉周作」生誕の地であり、「剣豪千葉周作」顕彰推進委員会が組織され活発な活動を行っている。中でも「少年剣道練成大会」は全国から出場者が集まり 18 年の歴史を迎えている。本校では、指導体制や武道具などが不十分なため剣道の授業は実施していないが、剣道部を設置し、外部指導者に支えられながら毎年県大会出場を果たしている。

2 学校の概要（平成 22 年 5 月 1 日現在）

	1 年	2 年	3 年	特別支援学級	計	
学級数	4	3	3	2	12	
生徒数	男	75	45	56	3	179
	女	41	33	44	1	119
	計	116	78	100	4	298

教員数 26 名（保健体育科 2 名）

武道の授業の状況

領域:武道	領域の内容:剣道					
	1 年	2 年	3 年	特別支援学級	計	
配当時間数	8	8	8	0	24	
担当教員数	2	1	1	0	4	
(外部指導者)	2	1	1	0	4	
生徒数	男	75	45	0	2	122
	女	41	0	44	2	85
	計	116	45	44	2	207

* 特別支援学級の生徒は、普通学級の生徒と合同で学習。

II 授業事例及び今後の展望等

【本事業の成果の要点】

武道の特性が十分指導に反映するよう、体育担当教員だけでなく校長（副校長）も剣道講話や実技等研修会へ参加し、学校体制として剣道の基本を学ぶ機会を作った。その際、市剣道協会の外部指導者の専門性を生かし、きめ細かに指導していただいた。

また、剣道の指導の基本や指導方法、指導過程、安全指導等の留意点を学ぶため、先進校の授業視察をしたり、本市作成の「剣道学習の手引き」を活用したりして授業実践に取り組み、次のような成果を得た。

生徒の変容として、多くの生徒が剣道のもつ特性や魅力を感じ取ることができ（剣道が楽しい、男女90%以上）、その第一の理由には、礼など伝統的な考え方をあげている。教員の変容として「互いに思いやりの心をもつこと」など、心をはぐくむ教材としての剣道のよさを強く感じる事ができたことがあげられる。

1 研究テーマ等

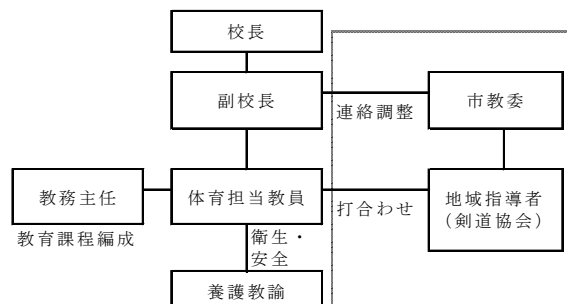
(1) 研究テーマ

- ① 新学習指導要領に対応した単元計画の作成と指導の在り方
- ② 外部指導者と体育担当教員の連携の在り方

(2) 研究テーマ設定のねらい

教材研究の進め方や単元計画の立て方、1 単位時間における外部指導者と体育担当教員による協力指導の方法を明確にし、武道教育の進め方を普及する。

(3) 取組体制



(4) 本事業における主な取組

	H22.9	中学校剣道先進校視察
平成	H22.9	第1回地域連携指導推進協力者会議
	H22.10	第1回剣道実技等研修会
22	H22.10	第2回剣道実技等研修会
年	H22.11~12	授業実践, 市内授業改善研修会
度	H22.12	剣道に対する意識調査, 実践のまとめ
	H3.2	第1回地域連携指導推進協力者会議

2 授業事例

(1) 第1学年 武道「剣道」

① 目的

中学校での剣道の学習段階を大きく分けて「はじめの段階：剣道を体験しよう」「やや進んだ段階：剣道のよさを知ろう」「進んだ段階：剣道の楽しさを知ろう」とし、中学校第1学年では、「はじめの段階：剣道を体験しよう」に取り組んだ。

重点を、①安全に剣道に親しむ ②竹刀や剣道具の扱い方の習得 ③剣道本来の精神に触れることの3つに設定し、その指導方法について実践的に研究した。

② 具体的な指導方法

ア 教材研究の工夫と単元計画の立案

○ 授業の正しいイメージをもつ

先進校の授業を視察し、地域の指導者と体育担当教員による指導の仕方を学んだ。武道の授業の在り方を、体育担当教員と外部指導者間で具体的にイメージを共有できた。

○ 単元で指導する内容を教員が身に付ける

剣道実技等研修会で、武道の特性や

イ 協力指導による1単位時間の基本的指導過程と指導上の留意点

[本時の目標] 4/8時間目

- 剣道具を正しく着装し、1本打ちの技(面)を打ち込むことができるようにする。
 - ・ 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする(礼法)。
 - ・ 自己や仲間の安全に留意する(健康安全)。

理念、単元で指導する基礎・基本を一通り学んだ。外部指導者に武道の精神や礼法作法等丁寧に指導を受けた。

○ 「剣道学習の手引き」を活用し、単元計画を立てる

本市発刊の「剣道学習の手引き」(先進校の実践事例や剣道学習の導入例、安全指導、指導方法が示されたもの)をもとに、時間数や生徒実態、対象人数、外部指導者と協力指導できる回数、教師の指導力等を考慮し【表1】のように単元計画を作成した。

○ 学習カードを利用した自己評価活動
絶えず武道の精神や礼法作法など自己評価させ意識させるとともに、自己の学習の振り返りを記述させ、主体的な学ぶ態度の育成に努めた。

【表1】単元計画(概略)と重点、TTについて(全8時間)

時間	主な学習内容	重点			TT
		①	②	③	
1	○剣道の歴史や特性の理解 ○授業の行い方の理解	○		◎	
2	○礼法作法, 足・体さばき ○竹刀の握り方, 扱い方 ○サムライごっこ	◎	◎	○	
3	○刃筋正しく素振り ○正しい剣道具の装着	○	◎	○	
4	○1本打ちの技を身に付ける(面, 胴, 小手)	◎	◎	◎	TT
5・6		◎	◎	○	
7・8	○剣道具の装着と収納	◎	○	○	

[注]重点 ①安全に剣道に親しむ

②竹刀や剣道具の扱い方の習得

③剣道本来の精神にふれる

[本時の評価の観点と具体的評価規準]

観点	十分満足できる	概ね満足できる	支援を要する生徒への手立て
技能	気剣体が一致し、正確でキレイのある一本打ち（面）ができる	1本打ちの技（面）を打ち込むことができる	ゆっくり伸び伸びと打つことから、次第に早く行うよう助言する

[展開]

	学習内容・学習活動	指導上の留意点（◎評価の観点） ☆外部指導者
導入	1 一礼をして体育館に入る 2 防具・試合の準備を行う きちんと整列し垂れと胴を着装する 3 挨拶をする 4 本時の学習内容、ねらいの確認をする	ポイント1 T1が教員、T2が外部指導者というのが基本である <ul style="list-style-type: none"> ・ 礼儀作法を守り、元気よく挨拶をさせる ・ 健康観察、服装点検 ☆着装が正しくできているか点検する
10分	ねらい：剣道具を着装し、一本打ちの技（面打ち）を身に付ける ポイント2 剣道体操は効果的である	<ul style="list-style-type: none"> ・ 竹刀体操を大きな声と動作で伸び伸びと行わせる
展開	6 面・小手を付ける ポイント3 「技能」であっても考えさせて、技能が身に付く学習内容にする 7 ポイントを理解し一本打ちの技能を身に付ける (1) 技能のポイントを理解する（正面打ち） ① 振り下ろすと同時に右足を踏み込む（振り方は素振りと同様） ② 左足を素早く引きつける ③ 正しい送り足を行う (2) ポイントを確かめながら技能を身に付ける ① 正面打ちを行う ② 2人1組で片方が、竹刀で受け、実際の打突に発展させる (3) 1本打ちの技【面】を身に付ける ① 技能のポイントを理解する ア 正面打ちの要領で面を打つ イ 元立ちの受け方 ウ 残心を示す ② ポイントを確かめ【面】の技能を身に付ける *2人1組で行う ③ グループ内でお互いの技能を確かめ、教え合い学習を行う *4人1組で行う	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手ぬぐいをきちんと付けさせる ・ 面紐を揃え途中で解けないように付けさせる ☆着装が正しくできているか点検する <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己と仲間の安全に留意させて取り組ませる ・ 実際に模範を示し、ポイントについて部分的に詳しく説明して理解させる ・ 資料を活用してポイントを整理しやすくする ☆安全に練習しているか点検する <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任と外部指導者は巡視をし、よい動きをしている生徒を認め、誉める ☆随時、ポイントについて指導する ポイント4 その都度評価する（意欲を大切に） <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に模範を示し、イメージをもたせると共にポイントについては部分的に詳しく説明して理解させる ・ 担任と外部指導者は巡視をし、個別に分かりやすく説明する
30分	8 整列をし、剣道具の結束を行う 外し方と結束法、収納の仕方	ポイント5 協力する態度を育てる場をつくる（グループ学習） <ul style="list-style-type: none"> ・ お互いにポイントを確認し教え合えるように促す ・ 礼儀作法をきちんと行わせる ・ 結束の仕方が正しくできているか確認する
まとめ	9 本時の評価と次時の課題の確認をする 10 正座、座礼をする 11 一礼して体育館を出る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードにより本時を振り返り、まとめをさせる ☆本時の学習に向かう態度・技能について助言する
10分		

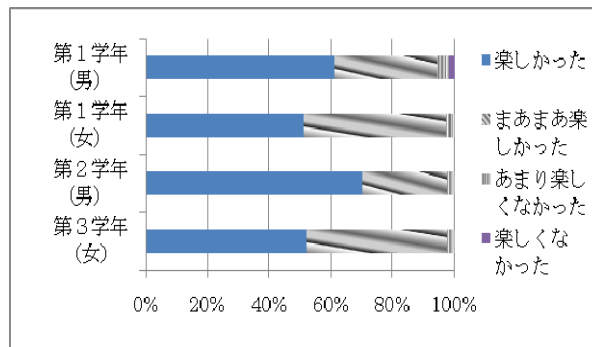
③ 成果・課題

ア 成果

- 先進校視察や先進校の実践事例，授業実践，授業改善研修会をとおして，剣道の単元計画の基本となるものを作成することができた。
- 外部指導者と体育担当教員との協力指導により，より充実した個別指導や専門的な指導が可能となったことで生徒たちが剣道の本質に触れ，興味・関心をもつことができた。
- 1 単位時間における外部指導者と体育担当教員による協力指導の方法について，授業改善研修会で協議し，それぞれの基本的な役割と指導上の留意点を確認することができた。
- 【図 1】にあるように，多くの生徒に剣道のもつ特性や魅力を感じ取らせることができた。
- 【表 2】にあるように，多くの生徒が剣道の学習をしてよかったと思うことの第一番目に，武道の特性である礼などの伝統的な考え方や態度をあげている。体育担当教員が武道の教育の本質を重視して指導したことと，地域の指導者が直接生徒へ指導したことなど同じ認識をもって指導に当たったことが要因であると考えられる。
- 礼法作法等を重視して指導してきた結果，「ありがとうございます」などの返事が今まで以上に返ってくるようになった。日々の礼法作法等の態度の育成にも結び付いていると考えられる。

イ 課題

- 体育担当教員の指導力の向上
- 外部指導者と協力体制の継続
- 安全指導・衛生指導及び管理の徹底
- 武道教育のよさを生かす学校づくり



【図 1】意識調査結果①「剣道の授業の楽しさ」

学年	①礼法作法を学んだこと	②剣道の厳しさを学んだこと	剣道の精神を学んだこと	技術を学んだこと	装着の仕方が分かったこと	腹の底から声を出したこと
1年男	84.7	52.8	72.2	73.6	7.5	5.0
1年女	76.9	20.5	48.7	71.8	69.2	23.1
2年男	93.6	59.6	80.9	74.5	76.6	57.4
3年女	54.5	22.7	22.7	70.5	77.3	20.5

【表 2】意識調査結果②「剣道の学習でよかったこと」 (%)



写真 1 教員の研修



写真 2 礼法作法の指導

3 今後の展望

本校を中心に，市内全中学校が剣道の指導に取り組み，各校共通の学習効果を上げることができた。中学校武道の必修化の趣旨や指導方法の共通理解が図られ，平成 24 年度中学校学習指導要領の完全実施時には，剣道及び柔道の両武道が円滑にスタートできる環境が構築できた。

今後，武道の教育の確実な定着を図るため，この事業で効果のあった取組である地域の指導者との協力関係を維持するとともに，本市などで開催する剣道や柔道の実技等研修会に参加し教員の確実な指導力の向上を図りたいと考える。また，武道が生徒の健全育成に果たす役割が大きいことから，学校づくりの大切な柱として充実したいと考えている。